

メッセージ

一般社団法人日本難病・疾病団体協議会第18回総会の開催にあたり、心より連帯のご挨拶を申し上げます。

ロシア・プーチン大統領によるウクライナへの軍事侵略から2カ月以上が経過しました。当たり前の日常が一瞬にして壊され、戦火によって大切ないのちが奪われています。ロシア軍は子どもや女性が多く非難する場所を攻撃するばかりか、必死にいのちを救おうとしている病院も標的にしています。そもそも、戦闘行為に関わっていない民間人や病院・学校などの民間施設への意図的な攻撃は、国際人道法違反であり、いのちと健康を守る医療従事者として、この状況を決して許すことはできません。私たち日本医労連は「ふたたび白衣を戦場の血で汚さない」決意のもと、ただちにウクライナから撤退することを強く求めると同時に、「戦争やめろ」「いのち守れ」の声を、皆さんと共に上げていきたいと思えます。

2年にもおよぶ新型コロナウイルスの感染拡大は、日本社会が抱える様々な問題点を浮き彫りにしました。いま叫ばれている医療危機、医療崩壊の背景には、目先の経済効率最優先に、不採算部門を切り捨て、医療・社会保障を削減してきた政策があります。「行革」と称して国公立病院や保健所が統廃合され、その結果、命の危険が迫っているにもかかわらず医療が必要な人に「自宅療養」や「ホテル療養」を強いる状態となり、いのちの選別が行われる「医療崩壊」が現実となってしまいました。その一方で22年度政府予算では軍事費は8年連続過去最大を更新し、社会保障費は自然増分を含め厳しく圧縮するばかりか、後期高齢者医療の窓口負担を年収200万円以上の人を対象に現行の1割から2割に増やす制度改悪を行いました。

政府が打ち出した看護師・介護士・保育士への処遇改善支援事業の実施は私たちの声と運動の成果ではあるものの、職場に差別と分断を生むばかりか実質賃上げにはつながっていません。

利潤第一・効率優先で社会保障を削り、格差と貧困を拡大させてきた社会のあり方が問われているいま、新たな感染症や自然災害など不測の事態においても、国民のいのち・人権が守られ、憲法が活かされ、誰もが人間らしく誇りを持って生き・働き続けられる職場と社会に転換させましょう。

そのために日本医労連も全力をあげて奮闘することを表明し、連帯のメッセージとさせていただきます。

2022年5月15

日本医療労働組合連合会
中央執行委員長 佐々木悦子